4/19 赤旗

職失い収入減り受診控え

全日本民主医療機関連合会が18日に行ったコロナ禍を起因とした困窮事例調査報告。事例からは、職を失う人や、収入が減り受診控えした結果、手遅れになる人がいるなど、深刻な実態が浮かび上がります。

困窮事例調査報告で発言する岸本氏(中央)＝18日、東京都千代田区

コロナ禍困窮事例の詳報

民医連

【60代男性・パート・アルバイト、独居】

施設の当直と鶏卵会社でアルバイトをしながら生計を立てていたものの、新型コロナウイルスの影響で鶏卵会社を解雇され、収入が減少しました。

医療費の心配もあり、なかなか受診できないなかで痛みが現れます。痛み止めを内服しながら我慢していましたが、歩行ができないほどに右腹部痛が強くなりました。

2020年10月に受診した結果、胃がん、転移性肝がんの診断で緊急入院。手術困難で化学療法を開始し、入退院を繰り返しながら治療継続するも21年3月に死亡しました。

手遅れになるなど深刻な実態

【フィリピン国籍の20代女性、無職】フィリピンから、夫と来日して妊娠。帰国して出産したいと考えていましたが、コロナ禍で飛行機の費用が値上がりし帰国困難になりました。

分娩(ぶんべん)について、市に相談に行くもののビザが切れており、医療保険証が取得できませんでした。市から無料低額診療をしている病院を紹介されますが、保険証がないと全額病院の負担になるため対応が厳しいとの判断になりました。

東京都の「外国人未払医療補てん事業」に相談するも、妊娠・分娩は、対象外。結果的に都立病院が「未収金覚悟で受ける」と言ってくれました。